

玉作1遺跡

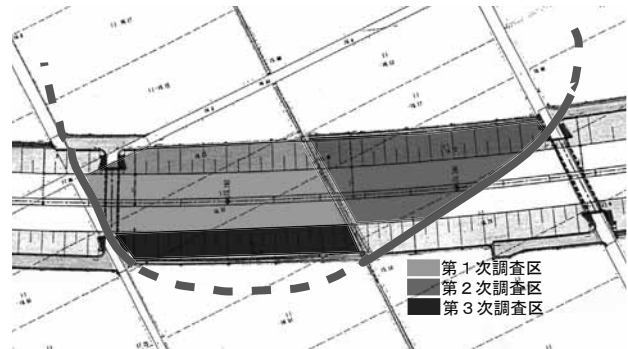
遺跡番号 平成16年度登録
 調査回数 第3次
 所在地 鶴岡市大字中清水字玉作
 北緯・東経 38度42分49秒・139度45分17秒
 調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
 調査原因 日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
 調査面積 1,000㎡
 現地調査 平成19年5月9日～7月11日
 調査担当者 佐藤正俊（調査主任）・深澤篤
 調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所・庄内教育事務所・鶴岡市教育委員会
 遺跡種別 集落跡
 時代 古墳時代・平安時代
 遺構 井戸跡・溝跡・柱穴跡・河川跡
 遺物 土師器・須恵器・石製品・管玉未成品・陶磁器・木製品・古銭
 （文化財認定箱数：8箱）



調査の概要

玉作1遺跡は、山形県教育委員会の試掘調査の結果、平成16年度に新規に登録された遺跡である。遺跡の一部が日本海沿岸東北自動車道の路線内にかかるため、日本道路公団東北支社（現・東日本高速道路株式会社東北支社）と県教育委員会との協議の結果、財団法人山形県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を実施することになった。

計画路線内全体の遺跡面積はおよそ7,400㎡で、このうち暫定二車線工事区域に入り、平成17年度に着工



調査概要図

予定となっているプレロード施工部分を含む3,680㎡を対象として平成17年度に第1次調査を行った。暫定二車線工事区域の残り2,786㎡を対象に平成18年度に第二次調査を調査を行った。本年度は、高速道路側道部分1,000㎡を平成19年度に第三次調査として行った。

現地調査は5月9日に開始し、①器材搬入②調査区の設定③重機による表土除去④面削りと遺構検出⑤遺構精査と記録といった順序で行い、7月11日に現地調査が終了した。

遺跡はJR羽越本線羽前大山駅の南南東約3.3kmに位置し、河間低地に立地する。地目は水田で一部は転作田となり畑地として利用されている

遺構と遺物

今回の調査では、井戸跡・溝跡・柱穴・河川跡などが検出された。調査区は、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積しており、調査区の東端や西端で厚くなり河川跡が検出された。中央の高まった地点に井戸跡や溝跡、柱穴が検出された。

井戸跡は、約 1.5m で深さ推定 2 m の円形の形を示している。東に隣接する溝跡は幅 70 ～ 90 cm、深さ 15 ～ 25 cm を計り、不用になった土師器が投げ捨てられた状態で出土した。

柱穴は、径 20 cm 前後、深さ 10 ～ 20 cm で、十数基検出されたが、建物を構成するまでには至らなかった。

河川跡は第 1 次調査区から延びて大きく蛇行し北に流れている。さらに調査区中央から東にかけて中小河川が検出された。遺物は出土していない。

遺物は、古墳時代の土師器、中世・近世の陶磁器、貨幣、木製品、くだたま みせいひん管玉の未成品などが出土した。

まとめ

今回の調査区で検出された井戸跡や溝跡は、出土した遺物から古墳時代前期に属する時代で、第 1 次調査区から続く今から 1,800 年前の集落の一部と見られる。

製作途中で出た碧玉製などの管玉未成品が出土したことから、地名からも分かるように、玉造りが行われていた可能性がある。庄内地方で見つけることは珍しく、石材の原産地を特定することにより、土器以外の観点から他の地域との交流を探るのに重要なものになる。これまでの調査では、玉を製作した場所である工房跡やその痕跡を見つけることはできなかった。



調査区全景（西から）



溝跡遺物出土状況（南から）



溝跡出土遺物（小形鉢）



管玉未成品



出土遺物